説教20220220レビ記19：9-18マタイ5：38-48「敵を愛しなさい」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちの内にもお臨み下さい。

敵というのは、私たちがこの世を生きていく上で、必ず出会う存在です。意見が対立している所には、必ず敵、味方という区分が生じることでしょう。意見が対立するという事は、必ずしも悪いことではありません。対立を乗り越えることによって、ますます理解や喜びや愛が深まっていくからです。ですから、私たちは敵がいるという事自体に怖気づいて、敵対関係を回避しようなどと思わない方が良いかもしれません。ユダヤ人の格言には次のようなものがあります。「悪い友よりも、善き敵を選べ」というのですが、この格言は、意見や気が合う仲間とべたべたしているよりも、ちょっと自分とは意見が異なり敵対することもあるけれども、そういった相手と積極的にかかわっていけ、という意味にもとれそうです。ちょっと自分とは意見が異なり敵対することもあるけれどもそういった相手と積極的にかかわっていけ、という事はさらっと言われてしまえば、その通りだと聞き流してしまうようなことですが、これをいざ実行してみようとなると、これがなかなか骨が折れて難しいのです、殊に、今のようなご時世ですと、みんなが怖気づいていますので、付和雷同、長い者には巻かれろ式の思考パターンが定着してしまい、人々は、意見が対立すること自体が、あたかも悪いことのように思ってしまい、意見が対立すること自体を避けようとします。ところが先ほど申し上げましたように、意見の対立という事は、悪いことではないのです。意見の対立は、私たち人間に課せられた課題のようなもので、それを悪いこととして避けるのではなく、むしろ積極的に議論して、そうして対立を乗り越えていき、ますます理解や喜びや愛が深まっていく醍醐味を味わうことの方がよほど幸せです。

例えば、新しく地動説が登場した時に、天動説を堅く信じて、この足元にある不動の大地が回転して動いている、などという事は決して信じない、という人は多かったでしょう。又、地動説が正しい、イヤ、天動説が正しいと激しく論争して、意見が対立した時代もあったことでしょう。しかしそういった対立が乗り越えられた上で、現在におけるより深い科学的理解がもたらされたのです。

さて、今まで、対立関係、敵対関係の積極的な良さを説いて来ましたが、実は、私のような者がこのように説いただけで対立関係、敵対関係が、清められ、改善され、よく用いられていくといった、簡単な話ではないのです。私たちは敵対関係を甘く見てはいけません。なぜならば、私たちが敵対している所には、必ず悪魔が、付け入るスキを狙って虎視眈々と控えているからです。ですからこれからはその悪魔に対抗できる唯一のお方、イエスキリストの御言葉を聞かねばなりませんので、その御言葉に耳を傾けて参りましょう。

悪魔は、私たち人間の敵対関係を狙って、そこに介入して、人々を憎しみあうように仕向けていきます。悪魔の手にかかりますと、私たちの敵対関係は、理解や喜びや愛が深まるどころか、妬みや憎悪や暴力や深まっていくキッカケに変わってしまうのです。なんと恐ろしいことでしょうか。そしてこの恐ろしい成り行きは私たち人間の手に負えることではなく、ただイエス様のみが解決して下さることです。

イエス様は言われます。マタイ福音書５章43節「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。」、、『隣人を愛し、敵を憎め』私たちはこれを旧約聖書からの引用であると誤解しないようにしましょう。実は、旧約聖書には「隣人を愛し」とは書かれていますが、「敵を憎め」とは書かれていないのです。「敵を憎め」という事は、現代人にとっても、ごく普通に受け入れてしまう格言になるかも知れません。しかし「敵を憎め」と思うことは大変危険であり、少しでも「敵を憎め」とみんなが思わされることの中には、悪魔の働きが満ち満ちているのです。聖書は、逆に私たちが安易に「敵を憎め」と思ってしまう事から逃れるようにひたすら戒めています。例えば申命記には次のように記されています。「エドム人をいとってはならない。彼らはあなたの兄弟である。エジプト人をいとってはならない。あなたはその国に寄留していたからである。」、いとう、というのは嫌に思って遠ざけるという意味ですが、将に主なる神は、かつての主人であるエジプト人を嫌悪して遠ざけてはならないと、神の民に戒めているのです。かつて自分たちを虐げ暴力を振るった相手でさえ、そのように受け入れていきなさいと主なる神が言われた理由は何でしょうか。それは、主なる神が、人々の敵対関係に、妬みや憎悪や暴力を植え付けていく悪魔のやり口をよく知っているからでしょう。悪魔に牛耳られ主導される人々の敵対関係は、遂には殺し合いにまで発展してしまうでしょう。

整理しますと、私たち人間の敵対関係は、それ自体で悪いことではないが、その関係が悪魔に乗っ取られ、こじれてしまうと、その関係は妬みや憎悪や暴力そして殺人という悪い方向に深められてしまいます。逆に、人間の敵対関係は、主イエスの手に委ねられますと、それとは正反対の理解や喜びや愛の深まりの方向に深まっていくのです。

ということは、私たちは敵対関係において、善い方に進むか、あるいは悪い方に進むかの分岐点にたたされているという事です。

「敵を憎め」とのメッセージを当時のユダヤ人社会の指導者たちは、社会に向けて公然と発信していました。人々の間に憎悪と反目をあおるその活動は、一見正義の業に見えたかもしれません。何故なら敵対関係をよいこととして用いていくことはそもそも骨が折れることであり、人間は放っておくと簡単にその敵対関係をこじらせてしまい泥沼にはまっていく傾向があるので、そのようなあおりの活動はかえって大衆に受け入れられやすいからです。「敵を憎め」とのメッセージは、大衆をあおる甘い言葉だったのです。ユダヤ人社会の指導者はこの時、いつの間にか悪魔の僕になり、悪魔の業を行っていたのでした。

これに対抗できるイエス様の御言葉が次の御言葉です。ヨハネ福音書5：44～「しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。」私たちは、悪魔の僕ではなくて、父なる神の子とならねばなりません。そうして父の子となる時、私たちは敵を愛し、自分を迫害する者のために祈ることが出来るようになります。

敵対関係がこじれていくのは、あおる言葉にもよりますが、その根本は、自分の中に宿される憎しみの思いです。憎む思いはそのものが悪です。憎む思いは、当初は心に宿った小さな種の様ですがそれが段々と膨らんで、自分の全体を支配するようになります。悪魔は私たちの各自の思いに憎しみの種を植え付けて、私たちを分断し、孤独にしようと常に画策しています。

イエス様は悪人に手向かってはならないと言われ、悪人に対する対処法を具体的に宣べておられます。「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。」これらのイエス様の戒めは、自分自身が憎しみという悪に染められないための、防御の構えでしょう。

私たちは、今ここにあって、善に向かっているのか悪に向かっているのかのどちらかです。善人、悪人などと言いますと、何か最初から最後まで善人で、最初から最後まで悪人の人がいる、という様にとらえられがちですが、この世にあって、善人と悪人は固定化した存在ではありません。ですから、最後の最後まで善悪の裁きは持ち越され、この世にあっては毒麦と良い麦とは安易に見分けられないように混在しているのです。45節に次のように記されています。「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」

私たちは、憎しみという悪を自分の中に持つとき、敵イコール悪、自分たちイコール善という誤った認識をもつに至ります。でもこの認識が間違っていることはすぐにわかりますね。なぜなら憎しみを懐いている自分イコール悪だからです。知恵を使えば、こんなことはすぐ分かるのですが、憎しみはその知恵をも使えなくさせる力を持っているのでしょう。一度、悪魔によって、このように敵対関係をこじらせてしまうと、私たちはますます、神の知恵にあずかることなく、自分たちの浅はかな考えによる泥沼にはまってしまい、孤独に陥ってしまいますね。

段々と、私たちが、いつも悪魔にそそのかされ、そして甘い耳障りのよい数々の言葉によって実際に憎しみを植え付けられていることの危険性、怖さが明らかになってきました。私たちは全員、そんな悪の誘惑になびいていく傾きがありますので、悪魔についていくのに信仰は要らないのです。極言すれば、私たちは放っておけば悪魔の僕にされてしまうのです。

私たちが、父なる神、主イエスキリストを信じる信仰のなんと素晴らしいことでしょうか。私たちはその信仰によってこそ、悪魔を遠ざけることが出来ます。こじれた敵対関係がある場所には、もう人間の手には負えないような絶望的な状況があります。その状況の只中で、イエス様は、私たちに「敵を愛し、自分を迫害する者の為に祈りなさい」と勧告をされています。私たちは悪意をもって自分の命を狙ってくる相手を、愛することが出来るでしょうか。この時の愛は勿論、情念の愛によるのではなく、神の知恵の御言葉や憐みの霊によって愛するのですが、そのように私たちが敵を愛せるとき、悪魔は憎しみという養分を断たれて、私たちを離れていくことでしょう。

私たちが、目指しているのは、「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」というイエス様の御言葉を日々行っていくことです。何か完全な者になれ、などと言われますと、何事も完璧に成し遂げよ、といった、よろしくない、いわゆる完璧主義的な生活態度を勧められているように誤解されがちですが、そうではありません。私たちはただ一人、悪魔に勝利された完全なイエス様に、いつも聞き従っていることによって、悪魔に誘惑され殺されるスキを与えることを防ぐことが出来ます。イエス様は命を賭けて完全に私たちを悪魔から守ってくださるのです。私たちは常にそのイエス様を身に着けることによって、各々に与えられた永遠の命を守って参りましょう。

祈ります

天の父

私たちは信仰が無ければ、自ずと敵を憎んでしまう愚かな者たちです。どうかそのような私たちを憐み、助けて下さい。あなたへの信仰によって、私たちが常に敵を愛することが出来るようにしてください。

私たちを悪からお救い下さい。悪の勢力は、憎しみによって味方を増やしながら私たちにも迫ってきます。どうか私たちがあなたの愛に留まり、憎しみに染められることが無いよう、隔ての壁となって下さい。

受難節を迎えようとするこの時、御子が自らの命を、敵に差し出した、その潔さを思い、命に勝る愛のありかを、私たちが知っていくことが出来ますように。

この世にあって、言葉は私たちの生活をつかさどり、私たちの生活は言葉によって祝福されることもあれば、生きずまることもあります。どうか御言葉を知っている私たちが、御言葉に根差した言葉を用いることによって、隣人に、祝福をもたらしていくことが出来ますように。

父と聖霊とともに